

2023年「教師のためのことばセミナー」のご案内

一般財団法人 ラボ国際交流センター
東京言語研究所

東京言語研究所では2019年まで9回にわたり、「教師のためのことばワークショップ」を開催し、「ことばへの気づき」の概念を基盤としたワークショップを行ってきました。そして、2021年からは「教師のためのことばセミナー」として、教師を主たる対象として理論言語学の考え方や方法を講義とディスカッションを交えた形式で解説する企画を始めました。

昨年は「ことばへの気づき」に関する講義を中心としたセミナーを実施し、好評を博しました。今年度は「気づき」の対象となる言語知識やその獲得・使用などについての講義を企画しました。小中高大の先生以外にも、教員志望者、社会人など、いろいろな背景を持つ方々に理論言語学の最近の研究成果にもとづく、わかりやすい解説を提供できるよう工夫を凝らします。

時間： 各日 10:00AM~12:00PM (10月1日のみ終了時間 12:40PM まで)

講義形態： ZOOM によるオンライン講義

受講料： 8,000円 (消費税込) 全3回 ※1日単位の申込受付は行っていません。

日程・講義テーマ・担当講師 (全体コーディネーター 大津由紀雄)

10月1日 (日曜日) 10:00AM~12:40PM 拡大版

・大人も子どもも楽しく学べる音声学入門 ~小学校での実践授業をもとに~

(川原繁人・慶應義塾大学教授)

・川原氏+亘理氏 (中京大学教授) による対談

10月15日 (日曜日) 10:00AM~12:00PM

比べて分かることばの仕組みと意味 (稲田俊明・九州大学名誉教授)

10月29日 (日曜日) 10:00AM~12:00PM

理論言語学は外国語教育の役に立つのか? (遊佐典昭・宮城学院女子大学特任教授)

※1日 大津による趣旨説明 20分、講義 60分、川原氏と亘理氏の対談 50分、全体ディスカッション 30分の時間配分

※15日、29日は午前10時から正午までの120分です。講義 90分、ディスカッション 30分の時間配分を考えています。

※申込み受付期間 : 8月25日 (金) 10:00AM~9月25日 (月) 10:00AM

受付期間内に [こちら](#) もしくは右記のQRコードよりお申込みください。

受講料振込締切: 9月25日 (月)



QRコード

10月1日(日) 10:00AM~12:40PM

大人も子どもも楽しく学べる音声学入門 ~小学校での実践授業をもとに~ (川原繁人・慶應義塾大学)

音声学では、人間がどのように音声を出しているのか、その音声がどのように空気中を伝わるのかなどを探究します。しかし、「音声学の授業をとったけど、覚えることが多くて挫折した」「音声学って物理学とか生理学が出てきて難しそう」という声を多く聞きます。が、音声学という学問は、身近な題材を使って楽しく学ぶことが可能です。本講義では、私がおこなった小学生向けの講義を再現しながら、音声学の基礎を楽しくじっくり紹介します。

川原繁人 講師プロフィール

慶應義塾大学言語文化研究所教授。「身近な題材を使って言語学と音声学を楽しく教える！」をモットーに幅広く活動中。これまで分析した対象は、プリキュアやポケモンの名前、日本語ラップの韻、かわいい娘たちの言い間違いなど。『音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む』(2022, 朝日出版社)、『フリースタイル言語学』(2022, 大和書房)、『なぜ、お菓子の名前はパピプペポが多いのか?』(2023, ディスカヴァー21)、『言語学的ラップの世界』(2023, 東京書籍)など著作多数。趣味は、ヨガ・ファスティング(断食)・サウナ。デトックスに精を出さないと、すぐバテる。

川原氏と亘理氏対談(進行: 亘理陽一・中京大学教授)

「教師のための」視点から、あるいは再現される講義にはいなかった(であろう)ウルサイ小学生の視点から、楽しい川原さんの音声学講義に取ってツッコミを入れます。川原さんの豊富な著書の読者の視点も加えて、「これはどうなの?あれはどう思います?」と投げかけ、音声学の「なぜ」を深掘りし、ことばに関する「楽しさ」のムコウをめぐる対話ができればと思います。

亘理陽一 講師プロフィール:

中京大学国際学部教授。言語学的成果にもとづいて教育内容・教材を構成し、実際の授業を通じて学習者が「わかる」・「できる」ようになる過程を明らかにすることを究極の関心に、みんなが知的喜びを共有でき、生徒も教師も楽しく学べる授業・カリキュラムのあり方を追究している。著書に『どうする、小学校英語? ---狂騒曲のあとさき』(慶應義塾大学出版会、2021年、大津由紀雄との共編)、『英語教育のエビデンス』(研究社、2021年、共著)など。周囲の大人たちからの「曲者」、「常に野党」、「トンガっている」等々の扱いを有り難く受け取る日々。

10月15日(日) 10:00AM~12:00PM

比べて分かることばの仕組みと意味(稲田俊明・九州大学名誉教授)

ことばの仕組みと意味について、日本語と英語を比べて考えます。言語に共通の法則が分かる簡単な事例からはじめて、日本語型と英語型の文法の違いに由来する表現法の違いを、具体的な構文を例に挙げながら概観します。次に、日・英語の仕組みと関連する文の意味を解説しながら、文脈によって解釈が決まる「言外の意味」を、村上春樹の翻訳や宮崎駿のアニメの英語字幕なども参考にして考えます。

稲田俊明 講師プロフィール

九州大学名誉教授、日本英語学会顧問。英語の構文や言語理論を研究しています。近年は、言語の仕組みのなかでも「変異の可能性」(多様性)の問題や、第二言語習得研究の課題にも興味を持っています。ことばを観察していると、普段の日常会話の中にも、海外ドラマの台詞や字幕などにも、研究に繋がる面白い発見や考えるヒントが見つかります。著書・編著には、『生成文法』(岩波書店1998年、岩波講座言語の科学6共著)、『言語研究の潮流』(1999年、開拓社)、「ことばの意味と法則をさぐる」(2009/2018年、ミネルヴァ書房;大津編著『はじめて学ぶ言語学』)など。趣味は、テニス。

10月29日(日) 10:00AM~12:00PM

理論言語学は外国語教育の役に立つのか?(遊佐典昭・宮城学院女子大学特任教授)

上記のような講義タイトルをつけるということは、「理論言語学は外国語教育に役立たない」というのが教師の一般的な反応だからではないでしょうか。確かに基礎研究としての言語理論と、現場的要因を含む外国語教育の連携がうまくいってないのは認めざるを得ません。この責任の一端(いや大部分)は、理論言語学者の側にあると思います。この反省をふまえて、この講義では言語知識、母語獲得、第二言語獲得、バイリンガリズム、脳科学などの領域から、外国語教育現場に示唆を与えそうな研究成果に焦点をあてて考えたいと思います。

遊佐典昭 講師プロフィール

宮城学院女子大学特任教授。言語理論、言語獲得(母語、第二言語獲得)、脳科学、絶滅言語のフィールドワークなど言語に関することは何にでも首を突っ込んでいます(苗字の「遊」と関係がありそうです)。ことばを利用して科学的思考法を育むことにも関心があり、毎日小学生新聞に「ことばのびっくり箱」を連載していました。著書・編著に『言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題』(2023年、開拓社)、『言語の獲得・進化・変化』(2018年、開拓社)、「ヒトは構造が大好き!」(2016年、朝倉書店、中島平三(編)『ことばのおもしろ辞典』)、「言語を生み出す脳を探る」(2009/2018年、ミネルヴァ書房、大津由紀雄(編)『はじめて学ぶ言語学』)など。趣味:路地裏店での飲食、好きな有名人:クレヨンしんちゃん。